

# 多言語解説文整備のための 英語解説文事例集

地域観光資源の多言語解説整備支援事業

観光庁  
令和3年3月版

■ 本事例集について

本事例集は、事業において作成された英語解説文全点を「文化財」「自然」「観光」の3分野別に掲載したデータベースです。どのような英語解説文が訪日外国人旅行者にとって魅力的な解説文か、本事業の全事例を紹介しています。

使用参考例

- 英語解説文を作成するにあたり、どのような事項を盛り込むことが、訪日外国人旅行者にとって分かりやすく、興味・関心を惹くのかを把握する。
- 地域が多言語解説整備を行う対象施設等を決定する際の参考として、どのような観光資源の多言語解説整備を優先的に行っていくべきか、本事業で実際に取り上げた対象物を確認する。

事例集の使い方

- 地域別整備対象物一覧  
各地域の解説文の冒頭に、本事業で作成した解説文の一覧が表示されている。

地域協議会名

観光資源所有者や自治体を表す

地域番号	001	協議会名	縄文遺跡群世界遺産登録推進会議	
解説文番号	協議会名		ワード数	想定媒体
001-001	特別史跡 三内丸山遺跡		501-750 ワード	Webサイト
001-002	特別史跡 大湯環状列石		501-750 ワード	Webサイト
001-003	史跡 大船遺跡		501-750 ワード	Webサイト
001-004	史跡 垣ノ島遺跡		501-750 ...	Webサイト

解説文一覧

本事業で作成した解説文の一覧

解説文番号

次ページ以降の解説文を検索する際に利用できる

ワード数

各解説文のおおよそのワード数

想定媒体

各解説文が予定している媒体

地域別解説文全文

本事業で作成した英語解説文および日本語（仮訳）の全文

地域協議会名

観光資源所有者や自治体を表す

解説文番号

各解説文に  
割り振られた番号

001-001

Sannai Maruyama Site

縄文遺跡群世界遺産登録推進会議

【タイトル】 特別史跡 三内丸山遺跡

【想定媒体】 Web サイト

想定媒体

当該解説文が  
予定している媒体

できあがった英語解説文

Sannai Maruyama Site

Traces of pit dwellings, foundations of large structures, mounds containing large quantities of earthenware, burial areas, and clay mining pits for pottery production tell much about prehistoric life and society at Aomori's Sannai Maruyama Site. The site is one of the largest settlement sites of the Jomon period (13,000–400 BCE) discovered to date, and archaeological surveys indicate that a sizeable settlement existed here for over a thousand years between 3900 and 2200 BCE.

*Development of settlements*

Food sources and environmental factors led to changes in the scale and form of settlements over the course of the Jomon period (13,000–400 BCE). They began at the end of the last glacial period as seasonal bases for foraging and hunting. As temperatures rose and food became more abundant, settlements became more permanent. They grew considerably in size between 5000 and 2000 BCE, with large that measured up to 32 meters in length. A number of these pit dwellings have been recreated and are open for visitors to enter. Archaeologists believe the larger dwellings may have functioned as community spaces, workshops, or communal winter living

できあがった英語解説文

上記解説文の仮訳（日本語訳）

特別史跡 三内丸山遺跡

竪穴式住居の痕跡、大型建造物の土台、大量の土器を含んだ古墳、墓地、陶器を作るための粘土採掘ピットは、青森にある三内丸山遺跡における先史時代の生活と社会の様子を物語っています。三内丸山遺跡は、今日までに発見されている最大の縄文時代（紀元前 3,000 ～ 4000 年）居住跡の 1 つで、考古学調査では、紀元前 3900 から 2200 年の 1,000 年以上間に大きな集落が存在していたことが明らかになっています。

集落の発展

縄文時代（紀元前 13,000 年～紀元前 400 年）を通して、集落の規模と形態は、食料の入手可能性と環境要因によって変化してきました。このような集落は、最終氷期の終わりに季節限定の狩猟採集地として始まりました。気温が上がり食料が豊富になるにつれ、集落は定着していきました。集落の規模は、紀元前 5000 年から紀元前 2000 年の間にかなり大きくなり、紀元前 3000 年頃には三内丸山遺跡のような大きな集落ができました。紀元前 2000 年から紀

日本語（仮訳）

各解説文に対応した  
日本語の仮訳

※日本語（仮訳）については、英語解説文に書いている内容を確認するために、基本的に英語からの直訳をしたものであり、日本人向けに作成した解説文ではありません。そのため、日本人向けの解説文が必要な場合は、日本語（仮訳）を使用せず、別途作成してください。